

関市の城



① 神野城(神野)
大仏山に神野城があつたとの記録がありますが、遺構は確認できていません。

③ 広見城(広見)
松見寺山の上に城跡があり、時期は不明ですが、守が住んでいたとの記録があります。遺構は確認できていません。

④ 千疋城(千疋)
城主は不明ですが、千疋裏山に城がある標高四三三メートルの本城山にあります。

⑤ 西神野城(西神野)
高野山に城があり、齋藤宗遊が住んでいたとの記録がありますが、位置は定かではありません。

2 小野城

小野城

小野城は関市西神野と美濃市樋ヶ洞にまたがる標高四三三メートルの本城山にあります。

山頂を中心東西約六〇〇メートル、南北約三〇〇メートルの範囲にわたって遺構が広がる中濃地域最大の山城です。

江戸時代から近代に書かれた文献資料では諸説書かれていますが、美濃守護代一族斎藤氏の居城であつたと考えられます。

東側の斜面には切岸を用いた曲輪が連続して築かれています。大仏山・日暮峯寺がある高沢山へと続く東側の尾根には、隣接して築かれている堅掘があり、尾根の先には堀切・堅掘が設けられています。尾根の先からさらに東に進むと出丸と考えられる曲輪があり、土塁や障壁をもつ堀切堀切から続く堅掘をみると、東側の尾根一帯で、山城の強固な防御施設を体感することができます。

8 関城

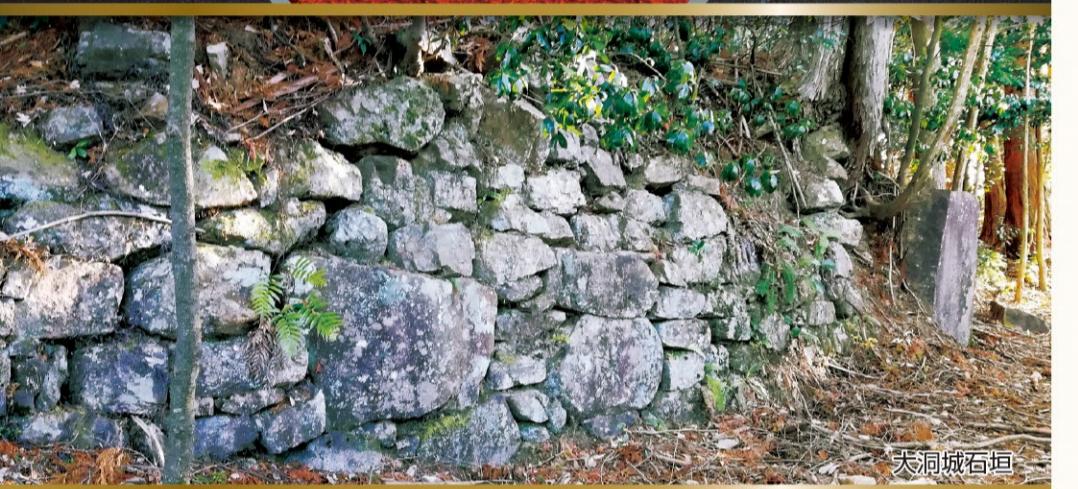
関城は標高二五二メートルの安桜山にあつたとされています。築城時期については複数の説がありますが、永禄八年(二五六五)に織田信長が東側の斜面には、腰曲輪と思われる平坦面や堅堀があります。山頂からの眺望は全体的に開けており、岐阜城などを見ることができます。

安桜山は公園として整備されているため城の遺構なのか判然としない箇所もありますが、北側の斜面には、腰曲輪と思われる平坦面や堅堀があります。山頂からの眺望は全体的に開けており、岐阜城などを見ることができます。

なお、中世の関町は、新長谷寺などの門前町や刃物を中心とする職人町として安桜山の南側に栄えていましたと考えられます。北側に「城前」などの地名が残っていることから、城の正正面が北向きであった可能性もあります。

関市城跡探訪

~刀の町の城跡巡り~



関市文化財保護センター
関市武芸川町八幡1446番地1 電話番号: 0575-45-0500 FAX: 0575-46-1221

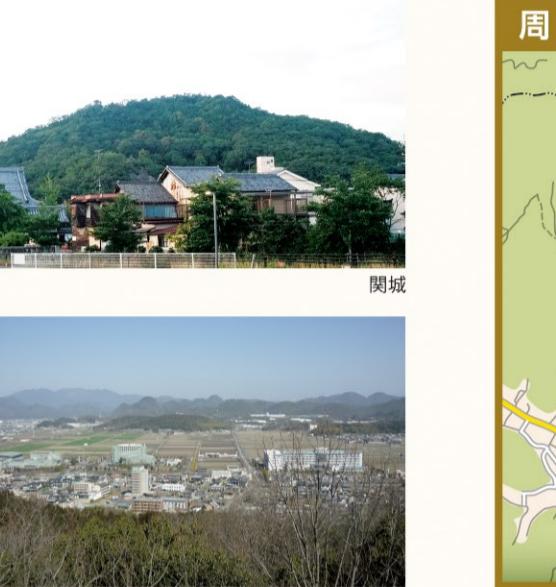
<https://www.city.seki.lg.jp>

令和6年3月増刷



周辺図
アクセス

安桜山公園駐車場から展望台まで約15分、山頂まで約20分。



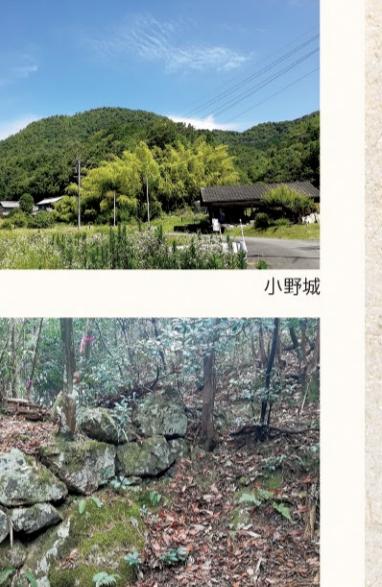
周辺図
アクセス

安桜山公園駐車場から展望台まで約15分、山頂まで約20分。



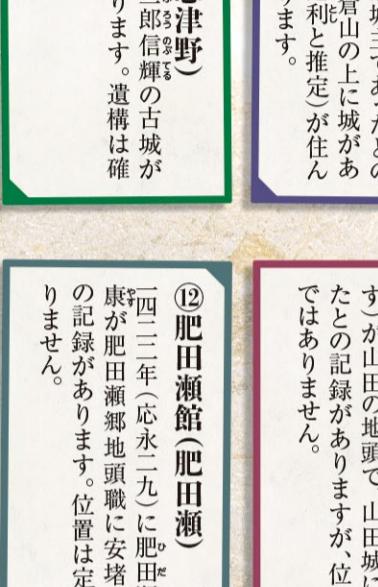
周辺図
アクセス

本城山登り口駐車場から山頂まで約60分。



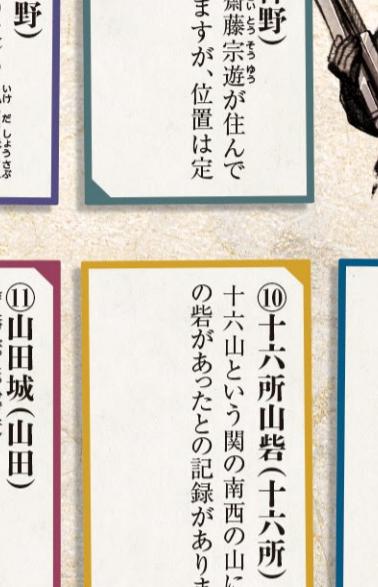
周辺図
小野城石垣

小野城石垣



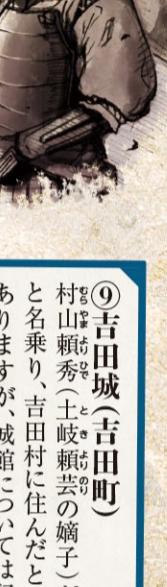
周辺図
肥田瀬館(肥田瀬)

肥田瀬館(肥田瀬)



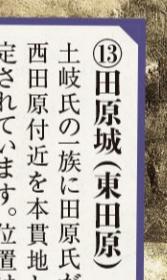
周辺図
十六所山砦(十六所)

十六所山砦(十六所)



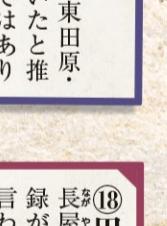
周辺図
吉田城(吉田町)

吉田城(吉田町)



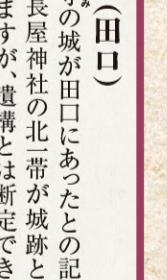
周辺図
田原城(東田原)

田原城(東田原)



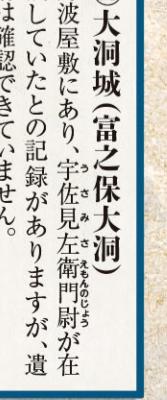
周辺図
市場城(市場)

市場城(市場)



周辺図
門原城(門原)

門原城(門原)



周辺図
町城(下之保)

町城(下之保)

22 大洞城

14 迫間城

大洞城は関市富之保に所在し、津保川と武儀倉川が合流する地点の北に聳える標高二六〇メートル、比高差約三〇メートルの山頂に築かれ、山頂東西約二〇メートル、南北約五〇メートルに遺構が広がります。

織田信長の美濃平定後は、一柳直末、稻葉典通が居城としました。時は郡上八幡城の出城になってしまったようですが、関ヶ原の合戦後に廃城となつたといわれています。

山頂には石垣を巡らせた主郭となる曲輪があり、その他に石垣を有する櫓や虎口、堅堀、堀切がみられます。城主の居館は南西山麓にある稻荷神社の南東側にあり、居館の南東側に延びる緩やかな尾根が大手道であると推測されます。山頂からの見通しがよく、飛騨西街道と郡上八幡を結ぶ交通の結節点に立地し、重要な位置を占める城があつたと考えられます。

大洞城は関市富之保に所在し、津保川と武儀倉川が合流する地点の北に聳える標高二六〇メートル、比高差約三〇メートルの山頂に築かれ、山頂東西約二〇メートル、南北約五〇メートルに遺構が広がります。

織田信長の美濃平定後は、一柳直末、稻葉典通が居城としました。時は郡上八幡城の出城になってしまったようですが、関ヶ原の合戦後に廃城となつたといわれています。

山頂には石垣を巡らせた主郭となる曲輪があり、その他に石垣を有する櫓や虎口、堅堀、堀切がみられます。城主の居館は南西山麓にある稻荷神社の南東側にあり、居館の南東側に延びる緩やかな尾根が大手道であると推測されます。山頂からの見通しがよく、飛騨西街道と郡上八幡を結ぶ交通の結節点に立地し、重要な位置を占める城があつたと考えられます。



周辺図
アクセス

県道沿いの駐車場が利用できます。駐車場から山頂まで約40分。

稻荷神社の脇に登り口があります。



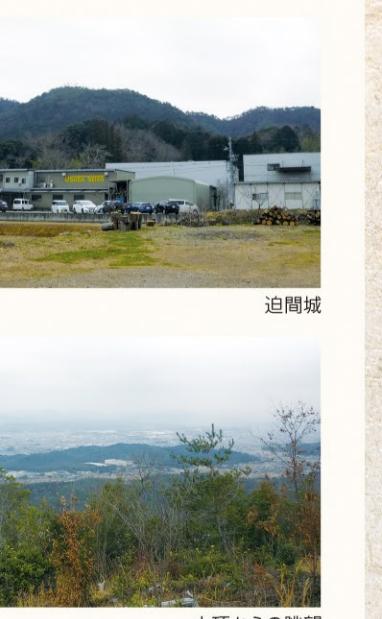
周辺図
大洞城石垣

大洞城石垣



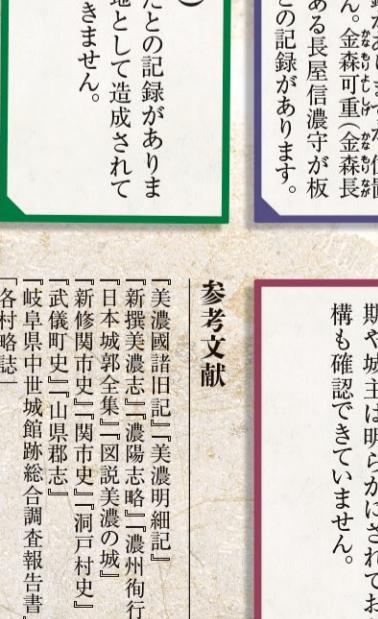
周辺図
アクセス

迫間ふどうの森駐車場から山頂まで約20分、東側を回る歩道(山道)経由で約40分、西側を回る歩道(主に階段が整備)経由で約25分。



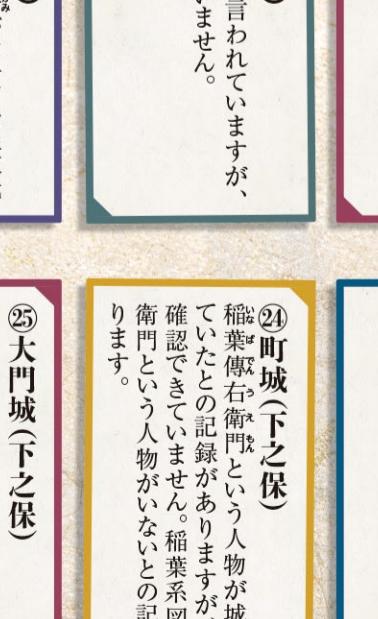
周辺図
山頂からの眺望

山頂からの眺望

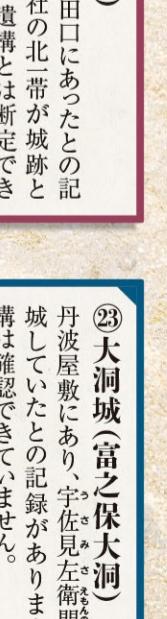


参考文献
②17 小坂城(下洞戸)
佐竹次郎・三郎義基が下洞戸郷に移り、虎口遺構があります。現在、不動尊が祀られていますが、虎口遺構がないため、比較的古い時代ではないかと言われています。

佐竹次郎・三郎義基が下洞戸郷に移り、虎口遺構があります。現在、不動尊が祀られていますが、虎口遺構がないため、比較的古い時代ではないかと言われています。



周辺図
丹波波屋敷(丹波波屋敷)、宇佐見左衛門尉(宇佐見左衛門尉)が城主でしたとの記録がありますが、遺構は確認できていません。



周辺図
丹波波屋敷(丹波波屋敷)、宇佐見左衛門尉(宇佐見左衛門尉)が城主でしたとの記録がありますが、遺構は確認できていません。